

中小企業景気動向調査レポート (調査期間:平成27年12月1日～4日)

(平成27年10月～12月実績、平成28年1～3月予想)

平成27年12月発行
西尾信用金庫
企業支援部

回答企業数

製造業	サービス業	卸売業	建設業	小売業	不動産業	合計
123	26	35	48	39	21	290

<全体の景況>

当期業況判断D.I.

	製造業	サービス業	卸売業	建設業	小売業	不動産業	全体
27/09	6.6	-20.0	8.8	10.2	-21.6	-9.5	0.3
27/12見込	10.6	-15.4	-14.3	20.8	-2.6	-4.8	4.1
28/3予想	3.3	-19.2	-2.9	18.8	-15.4	-9.5	-0.3

当期売上額判断D.I.

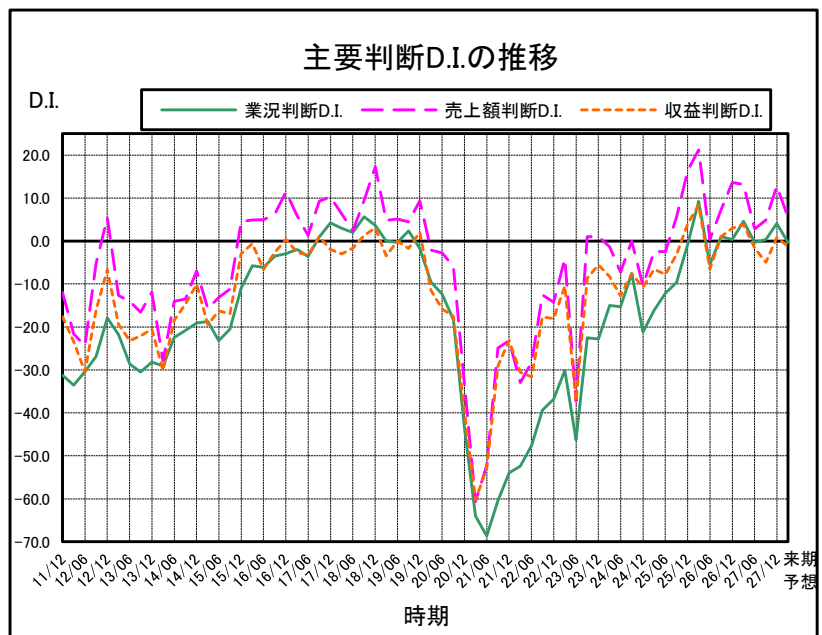
	製造業	サービス業	卸売業	建設業	小売業	不動産業	全体
27/09	10.8	-12.0	0.0	20.8	-12.8	-4.8	4.9
27/12見込	11.8	-11.5	25.7	18.4	10.3	19.0	12.8
28/3予想	12.6	-15.4	11.4	16.3	-23.1	9.5	5.5

当期収益判断D.I.

	製造業	サービス業	卸売業	建設業	小売業	不動産業	全体
27/09	1.7	-12.0	-5.9	-2.0	-12.8	0.0	-5.0
27/12見込	0.8	-19.2	17.1	16.3	15.4	4.8	0.8
28/3予想	8.4	0.0	14.3	8.2	-20.5	0.0	-1.2

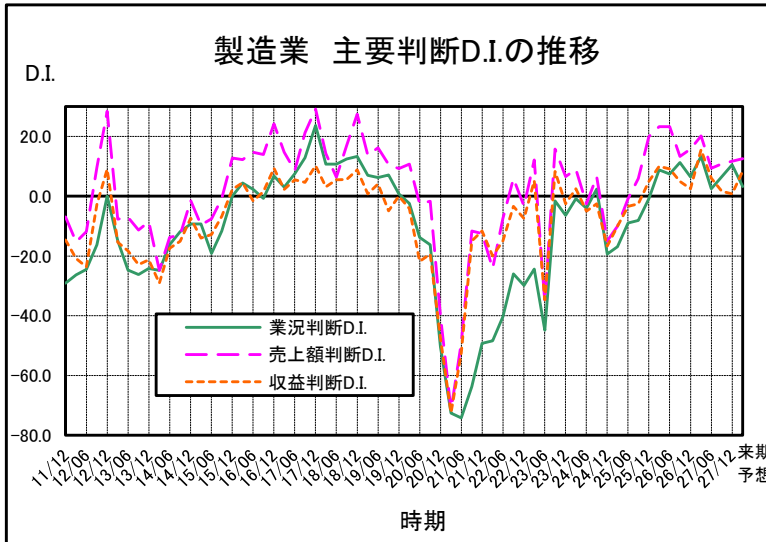
<製造業>

当期業況判断D.I.は4.1(前期比+3.8)、当期売上額判断D.I.は12.8(同+7.9)、また当期収益判断D.I.は0.8(同+5.8)と全項目で前期比プラスとなる。引き続き堅調な製造業に加え、需要期を迎えた建設業・小売業の回復が、全体の景況感・業況を底上げしている。ただ、来期は一転して全項目で当期比マイナスを予想する。海外経済の減速や消費回復の遅れから、先行きに対し慎重な見方を示しているものと思われる。尚、設備投資D.I.が▲7.2(前年同月比-9.8)と大幅に低下しており、設備の不足感が広がっているものと思われる。28年度予算等で補助金等各種支援施策が準備されている中、多くの企業の利用が予想される。



*判断D.I.は各質問事項で「増加」(上昇)したとする企業が全体に占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業構成比を引いて求めている。

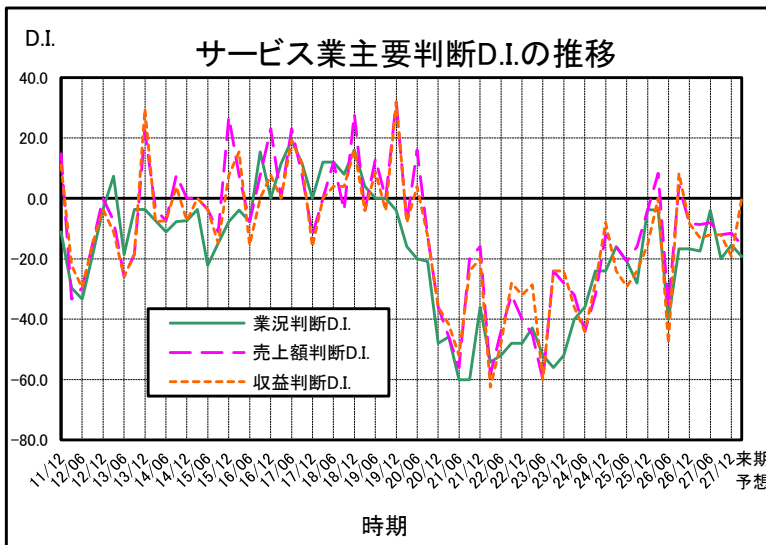
< 業種別 >



製造業	業況判断 D.I.	売上額 判断D.I.	収益判断 D.I.
27/09	6.6	10.8	1.7
27/12見込	10.6	11.8	0.8
28/3予想	3.3	12.6	8.4

< 製造業 >

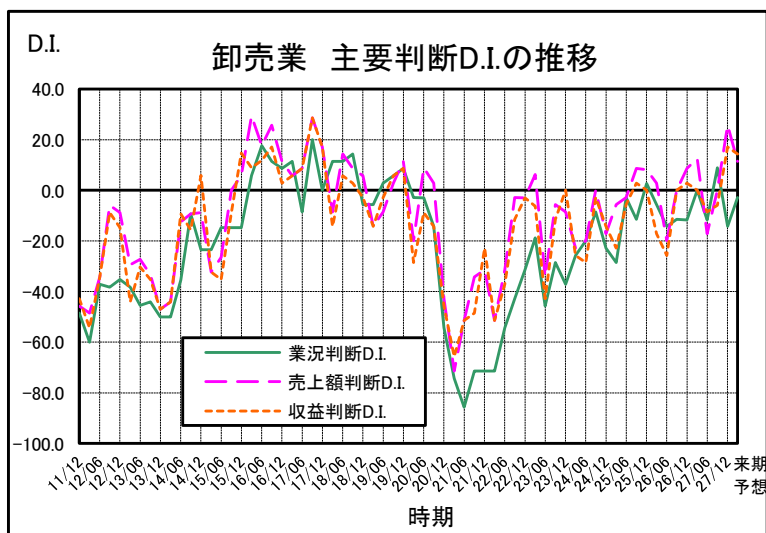
当期業況判断D.I.は10.6(前期比+4.0)、当期売上額判断D.I.は11.8(同+1.0)、及び当期収益判断D.I.は0.8(同-0.9)と、引き続き堅調な推移を見込む。アメリカ経済の回復やトヨタのモデルチェンジ等の影響で、主力である自動車関連企業を中心に景況感・業況を回復させている。一方来期は先行きに対する不透明感から、業況判断D.I.は3.3と慎重な見方を示す一方、足元の好況からその他の項目では堅調な推移を予想する。尚、設備投資D.I.が▲9.3(前年同月比-6.0)と低下傾向にあり、企業の設備投資意欲は底堅いものと思われる。28年度予算等で設備投資関連の補助金が計上されており、企業の申請動向が注目される。



サービス業	業況判断 D.I.	売上額 判断D.I.	収益判断 D.I.
27/09	-20.0	-12.0	-12.0
27/12見込	-15.4	-11.5	-19.2
28/3予想	-19.2	-15.4	0.0

< サービス業 >

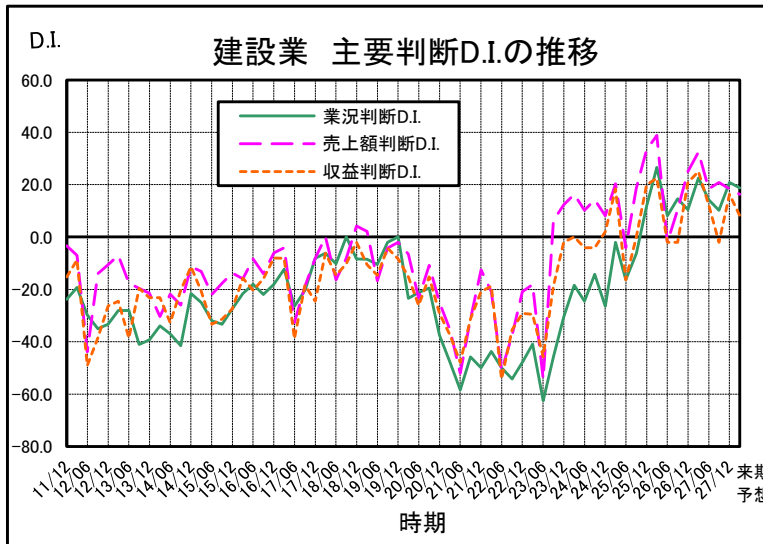
当期業況判断D.I.は▲15.4(前期比+4.6)、当期売上額判断D.I.は▲11.5(同+0.5)、また当期収益判断D.I.は▲19.2(同-7.2)と26/12期調査以来5期連続マイナス域にとどまる。個人消費需要に力強さが欠けていることに加え、同業者等との厳しい競争環境が経営者マインドを悪化させているものと思われる。28年度予算等で小規模事業者向け販路開拓支援策が予定されており、多くの企業の利用が見込まれる。



卸売業	業況判断 D.I.	売上額 判断D.I.	収益判断 D.I.
27/09	8.8	0.0	-5.9
27/12見込	-14.3	25.7	17.1
28/3予想	-2.9	11.4	14.3

< 卸売業 >

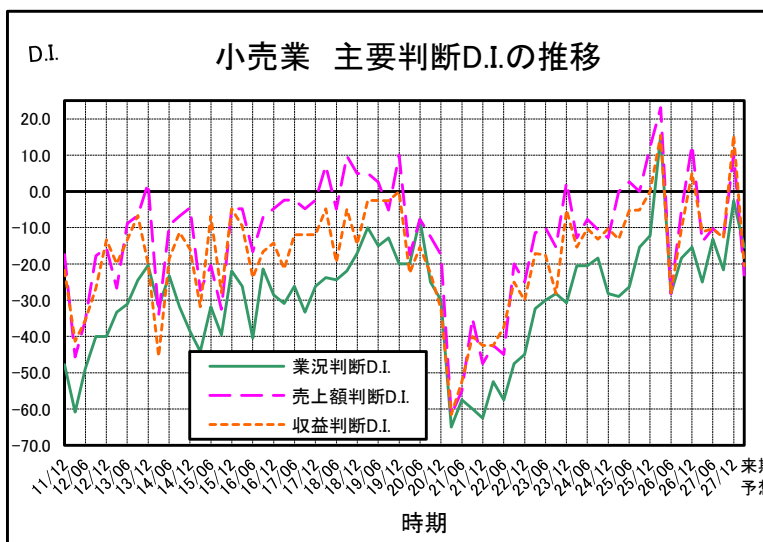
当期業況判断D.I.は▲14.3(前期比-23.1)と、景気の不透明感を反映して前期比大幅なマイナス、一方当期売上額判断D.I.は25.7(同+25.7)、当期収益判断D.I.は17.1(同+23.0)と、足元の業況は比較的堅調な推移を見込む。仕入価格D.I.が5.7(前年同月比-25.7)と大幅に低下し、世界的な資材価格の低下が地元企業にも影響を及ぼしているものと思われる。今後の推移が注目される。



建設業	業況判断D.I.	売上額判断D.I.	収益判断D.I.
27/09	10.2	20.8	-2.0
27/12見込	20.8	18.4	16.3
28/3予想	18.8	16.3	8.2

<建設業>

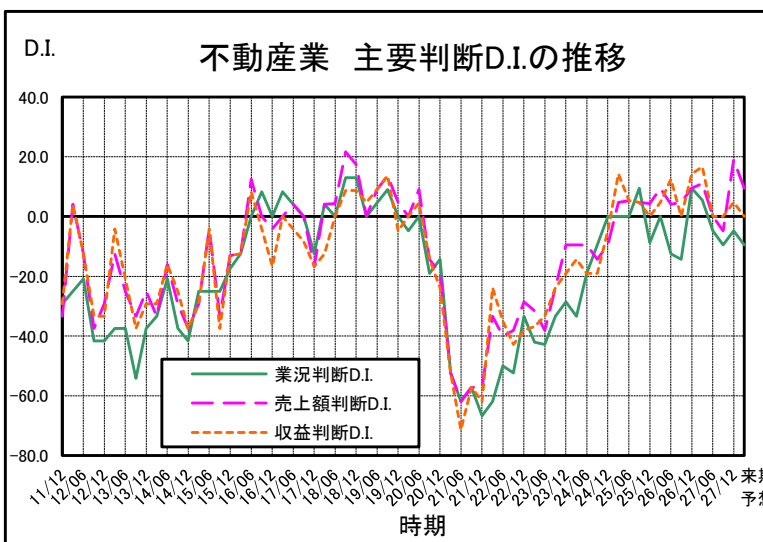
当期業況判断D.I.は20.8(前期比+10.6)、当期売上額判断D.I.は18.4(同-2.4)、また当期収益判断D.I.は16.3(同+18.3)と、全項目で2桁台のプラス域を示す。冬場の繁忙期に加え、比較的堅調な個人住宅需要が当業種の景況感・業況を底上げしているものと思われる。来期も引続き当期水準並みを予想する。尚、人手D.I.は▲28.6と25/9期以来連続の2桁台のマイナス域、かつ全業種で最も低い数値を示す。足元の受注は比較的堅調である一方、人手不足が広がっている状況が伺える。



小売業	業況判断D.I.	売上額判断D.I.	収益判断D.I.
27/09	-21.6	-12.8	-12.8
27/12見込	-2.6	10.3	15.4
28/3予想	-15.4	-23.1	-20.5

<小売業>

当期業況判断D.I.は▲2.6(前期比+19.0)と大幅な改善、また当期売上額判断D.I.は10.3(同+23.1)、当期収益判断D.I.は15.4(同+28.2)と26/12期以来の両項目プラス域を示す。年末の需要期を迎え、足元の業況に対し好意的な見方を示しているものと思われる。一方来期予想では一転して、業況判断D.I.は▲15.4(当期比-12.8)、売上額判断D.I.は▲23.1(同-33.4)、また収益判断D.I.は▲20.5(同-35.9)と大幅な悪化を予想する。大手やインターネット等との競争環境から、引き続き厳しい状況が続くものと思われる。



不動産業	業況判断D.I.	売上額判断D.I.	収益判断D.I.
27/09	-9.5	-4.8	0.0
27/12見込	-4.8	19.0	4.8
28/3予想	-9.5	9.5	0.0

<不動産業>

当期業況判断D.I.は▲4.8(前期比+4.7)、当期売上額判断D.I.は19.0(同+23.8)、当期収益判断D.I.は4.8(同+4.8)と、全項目で前期比プラスを見込む。堅調な個人住宅需要が足元の景況感・業況に影響を与えているものと思われる。製造業等の設備投資意欲が改善傾向を示す中、今後の動向が注目される。